

# 明日はもっと自由に

～男女共同参画で広がる地域の未来～

関 企画課地域振興班 ☎22-9105



総合防災訓練に参加する女性消防団員



遊具で遊ぶ花園認定こども園の園児と村田さん



一緒に夕食を作る濱本さんとお子さん

## 男女共同参画社会とは

男女共同参画社会とは、「すべての人が性別にとらわれず、自分の意志で生き方を選べる社会」のことです。「男性だから」、「女性だから」ではなく、多様性を認め合い、「自分だから」、「その人だから」できること、「やってみたい」という気持ちを尊重し合える社会であることが、誰もが生き活きと暮らせる地域づくりにつながっていきます。

## 明日はもっと自由に

平戸市は、性別にとらわれず、誰もが個々の価値観や希望に基づいて、自分らしい人生を選べる社会づくりを目指しています。

日本全体で少子化や高齢化、人口減少が進む今、地域の未来を支えるためには、性別や年齢に関係なく、すべての人が、個性や能力を十分に発揮できる社会づくりが必要です。

明日はもっと自由に、市民一人ひとりが、夢や目標を持ち、誰もが自分らしく生きられる地域社会の実現のため、「ちよつとした気づき」や「考え方の見直し」から行動を始めることが大切です。

## 子どもたちの未来のために、自分にできることを



花園認定こども園 保育士  
村田 康元 さん  
(岩の上町)

「子どもたちと触れ合うことが好きだったこともあり、高校生の時には自然と保育士になりたいと思うようになりました」

そう話すのは、花園認定こども園で2年目を迎える男性保育士の村田康元さん。現在は3歳児クラスを担当し、日々の保育に携わっています。子どもが一人でできないことを一緒にチャレンジしたり、遊びの中で上に乗ってきたり、「先生！」と笑顔を見せてくれた瞬間に、この仕事のやりがいを実感するそうです。

男性保育士として、子どもたちに安心感を与える存在であることを意識し、「子どもたちの個性に合わせて接するように気をつけています」と話します。

一方で、花園認定こども園を含め、保育士として20年以上の経験がある村田さんは、「今は慣れてきました」が、最初は男性保育士が少なく、保育会などの集まりでは男性1人の時もありました」と、気まずさを感じたこともあったそうです。

現在の職場は、男女関係なく意見を出し合える風通しの良い環境が整っており、性別に関係なく一人ひとりが尊重されていると感じているとのこと。

明日の社会がもっと自由になるように、子どもたちにも「男の子だから」「女の子だから」にとらわれず、ありのままの自分を大切にしてほしい。そんなメッセージを伝えていきたいと語ってくれました。

## 地域を支える、しなやかな力



NPO 法人  
山田・館浦地区まちづくり運営協議会  
濱本 洋子 さん  
(生月町)

しているそうです。

家庭では、家族と日々の予定を共有しながら、無理なく家事や育児を分担することを意識しているといいます。

結婚当初は「家事は女性がするもの」と思っていたそうですが、いつの間にか夫が「一緒に作った方が早いし楽しい」とキッチンに立つようになったとのこと。今では、娘にとって「家のごはんはパパとママが一緒に作るもの」というのが当たり前になっているようです。

「もっと自由な発想で、誰もが関われるまち協をつくっていききたい」と語るその姿に、地域と家庭をしなやかに支える力強さがにじんでいます。



# 「明日はもっと自由に」を叶えるための取り組み

平戸市では、誰もが自分らしく活躍できる社会の実現に向けた取り組みを進めています。



平戸市民から選ばれた委員による推進協議会を開催し、平戸市の状況や取り組みについて協議を行っています。令和6年度は、まちづくり運営協議会事務局の皆さんと男女共同の視点による防災研修会も実施しました。



家事・育児は、家族で行うチームプレイであることを改めて認識し、夫婦と一緒に子育てができるように、男性を対象としたベビーマッサージ教室や父と子の料理教室などの家事育児推進講座を実施しています。



夫婦ばかりでなく、若い恋人間にもDVは起きています。このような現状を受け、中学・高校生の時期に、対等な人間関係作りの大切さを知る機会を持つため、中学校で「デートDV防止学習会」を開催しています。



11月25日は、国連の定める「女性に対する暴力撤廃国際日」で、女性に対する暴力根絶のシンボルとしてパープルリボン運動を実施しています。平戸城や幸橋のパープルライトアップもこの活動の一環です。

## 6月23日～29日は男女共同参画週間

男女共同参画社会の目的や基本理念について理解を深めるため、毎年6月23日～29日に「男女共同参画週間」を実施しています。男性と女性が、家庭や職場、学校、地域などで、それぞれの個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」を実現するためには一人ひとりの取り組みが必要です。

私たちのまわりの男女の環境がどうなっているのか、この機会に考えてみましょう。

### ～男女共同参画週間オンライン研修会～

- と き** 6月25日(水) 午後1時30分～午後3時30分(参加費無料)
- ところ** 平戸市未来創造館 2階和室
- テーマ** 「はて？」から始まる私と地域はどう変わるのか？

明日はもっと自由に



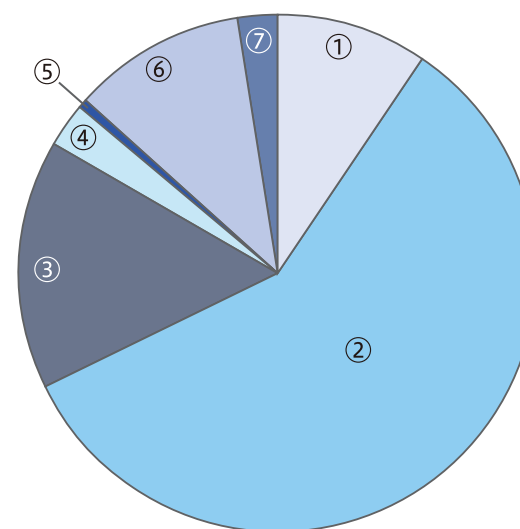
# あなたの周りにもあるかも？”性別による思い込み”がもたらす壁

私たちの地域や暮らしの中には、長年にわたって受け継がれてきた慣習や価値観が残っています。たとえば、「地域や組織の役職は男性が担うもの」、「家事や育児は女性の仕事」、「男性は外で働き、女性は家庭を守るもの」など……。こうした考え方を耳にしたことや感じたことがある人も多いのではないのでしょうか。

昨年度、満18歳以上の長崎県民男女3千人を対象とした意識調査では、社会生活の多くの場面で男性が優遇されていると感じており、家事や子育ての役割は、ほとんど妻が担っているという結果が出ています。

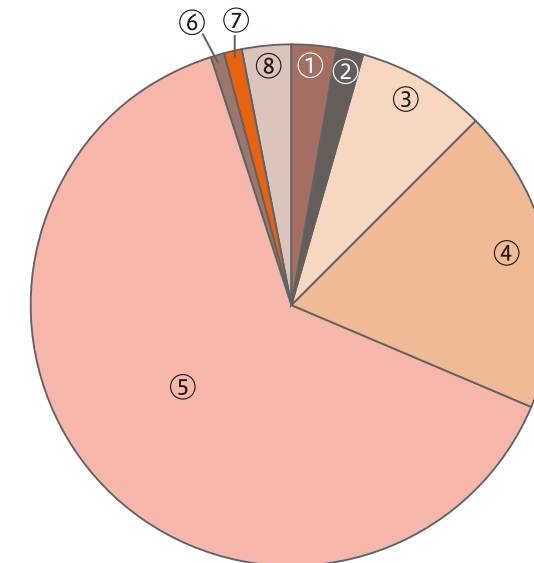
## 男女平等・家庭生活に対する見解

社会生活における男女平等



- ① 男性の方が非常に優遇 (9.6%)
- ② どちらかと言えば男性の方が優遇 (58.4%)
- ③ 平等 (15.5%)
- ④ どちらかと言えば女性の方が優遇 (2.7%)
- ⑤ 女性の方が非常に優遇 (0.7%)
- ⑥ わからない (10.7%)
- ⑦ 無回答 (2.4%)

家庭内での役割分担(食事のしたく)



- ① ほとんど夫 (2.9%)
- ② どちらかと言えば夫 (1.6%)
- ③ 夫と妻が両方同じ程度 (8.2%)
- ④ どちらかと言えば妻 (18.9%)
- ⑤ ほとんど妻 (63.6%)
- ⑥ 親や子どもなど他の家族 (0.9%)
- ⑦ わからない・該当なし (1.0%)
- ⑧ 無回答 (2.9%)

出典：令和6年度男女共同参画社会に向けての県民意識調査報告書

## 性別による思い込みが可能性を狭める？

「性別によって担うべき役割が決まっている」という思い込みが、無意識のうちに人の可能性を狭めてしまうことがあります。「本当はやってみたいけれど、女性だから難しいかも」、「男性なのにこんなことをするのは恥ずかしい」……。そんな気持ちが、一歩踏み出す勇気をくじいていないでしょうか。

こうした「性別による役割分担」の意識は、個人の希望や多様な生き方を制限するだけでなく、地域全体の力を発揮しにくくする要因にもなり得ます。

私たち一人ひとりが持っている「気づかない思い込み」が、誰かの可能性を狭めているかもしれません。まずは、「昔からそうだから」という思い込みが自分の中にもあるかもしれないと意識してみることが第一歩。そうしたあなたの気づきが明日の社会をもっと自由に、もっと生きやすくするための力になります。